

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス 豆の木		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 17日		2026年 3月 6日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数) 8
○従業者評価実施期間	2026年 2月 17日		2026年 3月 6日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 30日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもの情緒に寄り添う個別対応と柔軟な環境設定	集団生活の中で活動への参加が難しいお子様に対し、無理強いないで、畑での土いじりや草取りといった「気分転換の時間」を個別(1:1)で設けています。本人が見通しを持てるよう、時計を用いた時間管理を併用するなど、情緒の安定を最優先にした柔軟な環境構成を実施しています。	こうした柔軟な対応を「一部の職員の経験」に留めず、チーム全体で共有。どの子がどのような環境で落ち着くのかを構造化し、誰でも同じ質の配慮ができる体制を強化します。
2	5領域を意識したプログラム提供と個別学習の導入	「健康・生活」「運動・間隔」「認知・行動」「言語・コミュニケーション」「人間関係・社会性」の5領域を網羅した月刊活動予定表を作成しています。また、コグトレ(認知機能強化トレーニング)を個別指導に取り入れ、一人ひとりの認知特性に合わせた学習支援を意識的に行っています。	個別指導(コグトレ等)を行っている時間帯のフロア全体の安全確保と、児童発達支援・放課後等デイサービスそれぞれの発達段階に合わせた活動内容の明確な切り分けを検討し、専門性の向上を図ります。
3	ICTツールを活用した日々の記録と情報共有	LITALICO等のICTツールを導入し、子どもの日々の行動観察や気付きをデジタル記録として蓄積しています。全員が集まれる時間が限られる中、朝の申し送りや観覧、チャットツール等を活用し、重要な情報の漏れがないよう工夫しています。	現状の記録をさらに一歩進め、単なる行動記録に留まらず、個別支援計画に基づいた効果検証(モニタリング)に直結するよう、記録の質と分析力の向上を目指します。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域・保育園との強固な連携体制	保育園との連携が非常にスムーズであり、併行利用時の支援内容について密な情報共有が行われています。インクルージョン(地域共生)の観点を持ち、園の様子を事業所での支援に反映させる体制が整っています。	保育園との連携実績をモデルケースとし、今後は小学校や特別支援学校、放課後児童クラブ等との直接的な連携も強化。就学時や卒業時のスムーズな移行支援を目指します。
2	権利擁護の意識醸成と安全管理の習慣化	虐待防止研修を定期的実施し、職員の意識向上に努めています。また、毎月の避難訓練を欠かさず実施し、非常災害時における職員・子どもの安全確保手順を習慣化させています。	ヒヤリハット報告を「再発防止のための貴重な情報」と位置づけ、毎月定例で検討会を開催。事例を職員・保護者間で適切に共有し、組織全体の安全管理能力を高める仕組みを構築します。
3	保護者との密なコミュニケーションと意向把握	送迎時の対面での会話や連絡帳を大切に、保護者の子育ての悩みやニーズをリアルタイムで把握するよう努めています。保護者のスケジュールや特性にも配慮し、寄り添った形での支援を意識しています。	個別支援計画の作成にあたり、保護者のニーズをより深く計画に反映させるとともに、共通理解度を高めるための面談時間の確保と、期限尊種に向けた業務フローの改善に取り組みます。

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	保育所等訪問支援 豆の木		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 17日		～ 2026年 3月 6日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 2
○従業者評価実施期間	2026年 2月 17日		～ 2026年 3月 6日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○訪問先施設評価実施期間	2026年 2月 17日		～ 2026年 3月 6日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	1	(回答者数) 1
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 30日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	訪問先との高度な連携と専門的助言体制の確立	訪問先の理念や支援方針を尊重し、実施後には必ず担当者とのカンファレンスを実施。担任教諭が即座に実践できる具体的な環境調整や声掛けを提案し、施設全体の支援力向上に寄与しています。	助言内容を口頭だけでなく、ポイントをまとめた「訪問記録シート」として視覚的に共有する工夫を行い、担任以外の職員も共通の配慮ができるよう、園内での情報共有を後押しします。
2	子どもの利益を最善に考慮した丁寧なモニタリングと共有	保護者や訪問先の意向を客観的に分析し、児発管と訪問スタッフが共通理解のもとで計画を作成。訪問後は速やかにご家族へ詳細なフィードバックを行い、三者が同じ目標に向かってよう調整役を徹底しています。	定期的なモニタリングの際、保護者だけでなく訪問先の担任教諭の「小さな成功体験」も積極的に拾い上げ、計画の見直しに反映させることで、関係者全員のモチベーションを高める包括的な支援を目指します。
3	質の維持を目的とした適正な受入管理と安全管理の実践	質の高い計画策定と詳細な報告書作成を確実に遂行するため、職員体制に見合った児童数を適切に管理。虐待防止研修や安全計画の策定、ヒヤリハットの共有など、守りの体制も盤石です。	事務負担の効率化（ICTツールのさらなる活用等）を進めることで、捻出した時間をスタッフ間の「ミニ勉強会」や「事例検討」に充て、受け入れ人数が限られているからこそできる、圧倒的な専門性の追求を図ります。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	客観的指標に基づくアセスメントの充実と評価の多角化	行動観察（インフォーマル評価）が主軸で、数値化された客観的評価ツールの活用が一部に留まっている。	標準化されたアセスメントツールを導入し、観察結果をデータで裏付けることで、訪問先や保護者に対してより説得力のある支援提案を行います。
2	時間的余裕の創出による職員間の共通理解とチーム力の深化	報告業務等に多大な時間を要し、職員間での深いケース検討や振り返りの時間が不足している。	事務フローを刷新し、支援終了後の短時間振り返りを定例化。どの職員が担当しても質の高い支援が提供できる「チーム訪問支援」を強化します。
3	訪問対象機関の拡大と地域連携ネットワークの広域化	訪問先が保育園に限定されており、小学校や地域の子育て会議等への参加・連携がまだ不十分である。	保育園との成功実績を基に、小学校へも積極的に働きかけを行い、地域全体で切れ目のない支援（移行支援）ができるネットワークを構築します。